第4章

横浜から大会を盛り上げる

東京2020大会開催の機運醸成や開催競技のPRなどを目的に、2017年から節目ごとに開催までのカウントダウンを実施してきた。また、子どもたちがオリンピアン・パラリンピアンと直接触れ合う取組やSNSを活用した情報発信などを通じて、市全体で開催ムードを盛り上げていった。

イベント

2017年9月に開催した「東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー」を皮切りに、節目ごとに多彩なゲストも交えて様々なイベントを行い、大会の機運醸成や開催競技のPR、スポーツ振興に取り組んできた。また、同じく野球・ソフトボール競技の開催自治体である福島県とも連携し、定期的な交流を行った。

2020年3月の新型コロナウイルス感染症の影響による開催延期以降も、オンラインを活用したイベントを積極的に実施。さらに大会終了後には、企画展やアスリート感謝会など、振り返りイベントも開催した。

大会開催前 2017〜2020

2017年

東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー
(9月3日〜12日)

オリンピックとパラリンピックのフラッグが全国を巡回。横浜市内は神奈川県庁本庁舎正門前を会場に、三浦大輔さん(元野球代表)がフラッグアンバサダーとして神奈川県知事・横浜市長・藤沢市長へフラッグを引き継ぎ、その後区役所などを回った。引継式では、三浦さんのトークショーや神奈川県警察音楽隊による演奏などのステージイベントも行われた。

←旧市庁舎に飾られたオリンピック・パラリンピックのフラッグ

東京2020 オリンピック・パラリンピック 1000日前キャンペーン in 横浜
(10月28日、11月4日、25日)

開催1000日前を記念するキャンペーン。10月28日は横浜赤レンガ倉庫で開催された横浜マラソンEXPOステージにおいて山田恵里選手・泉礼花選手・岡村奈々選手(ソフトボール)や監督ら5人によるトークショー、11月4日は横浜国際総合競技場でのラグビー日本代表戦の開催に合わせたPRブース出展を行った。また、11月25日には福島県の子どもたちを招待し、横浜スタジアムで横浜市の子どもたちと野球の親善試合を行ったほか、ゲストの中畑清さん・三浦大輔さん(元野球代表)、室伏広治さん(元ハンマー投代表/東京2020組織委員会スポーツ局長)によるトークショーも行った。

←ラグビー日本代表戦で出展したPRブース。東京2020組織委員会とともにSNSでの魅力発信を促進した

2018年

横浜にオリンピックがやってくる! 【Tokyo 2020 2 Years to Go!】 in Yokohama
(8月4日)

クイーンズスクエア横浜を会場に、2年前を記念して開催。三浦大輔さん(元野球代表)と山口宏さん(横浜市体育協会会長)の対談や、北原照久さん(大会マスコット審査会メンバー)のトークショーを実施したほか、大会マスコットパネルのフォトスポットや、審判員ファッションショー、オリジナル缶バッチ作り、フォトモザイクアート撮影会など、ステージから体験ブースまで盛りだくさん。パラリンピック競技のボッチャの体験会なども行われた。

←英国事前キャンプをPRするステージも行われ、開催当日は約3,800人が会場に訪れた

ジャパンウォーク in YOKOHAMA 2018秋
(11月10日)

東京2020大会を盛り上げ、障害の有無に関わらず誰もがともに暮らす社会を目指すきっかけ作りとして、大勢のオリンピアン・パラリンピアンと一緒に歩き、触れ合うウォーキングイベントを開催(横浜市は共催として参画)。象の鼻パークを発着地として、12km、8km、4kmの3コースが設定され、松田丈志さん(元競泳代表)、田口亜希さん(元パラ射撃代表)ら29人が伴走した。

⬅大会マスコットのミライトワ、ソメイティも応援に駆け付けた

2019年

500日前セレモニー in 横浜
(3月12日)

東京2020オリンピック開催500日前から、サッカー競技会場の横浜国際総合競技場の大型ビジョン(浜鳥橋交差点前)で、カウントダウンを開始。それを記念し、遠藤彰弘さん(元サッカー代表)や若山英史選手(車いすラグビー)が参加し、除幕式を行った。

⬅当日は地元の自治会町内会長や太鼓チームも登壇・出演し、にぎわった

500 Days to Go! フェスティバル ～東京2020開催まであと500日!～
(3月16日)

新横浜公園一帯で行われた開催500日前イベント。ステージでは、港北区舞踊団の皆さんによる「東京五輪音頭-2020-」や、アルケミストと岡村小学校の児童の合唱など、多彩なコンテンツが披露された。また、車いすバスケ体験や、タンデム自転車体験、陸上競技用車いす速度測定などパラスポーツの体験ブースも用意。秋田豊さん(元サッカー代表)、上與那原寛和選手(パラ陸上競技)、篠原信一さん(元柔道代表)、寺田明日香選手(陸上競技)らも登壇。

⬅Foorinによる「パプリカ」などのステージが行われ、来場者を楽しませた

フラワーフォトスポット ～Welcome to TOKYO2020～
(4月13日~6月2日)

「ガーデンネックレス横浜」と連携し、東京2020パラリンピック開催500日前から期間限定で開港広場公園に花壇を設置。初日のお披露目式には内野洋平選手(自転車BMX)と円尾敦子選手(パラトライアスロン)も駆け付け、盛り上げた。また、最終日には、花壇の花を活用した「写し染めワークショップ」を開催。「写し染めワークショップ」は里山ガーデン(旭区)においても、近隣学校と連携して小学生に体験してもらった。

⬅初日のお披露目式には内野洋平選手と円尾敦子選手が登壇。内野選手の自転車パフォーマンスも披露された

1 Year to Go! フェスティバル ～東京2020開催まであと1年!～ in 横浜市
(7月13日)

横浜スタジアムで行われた開催1年前イベント。第1部では、山田恵里選手(ソフトボール)、河合来夢選手(ブレイクダンス)、本堂杏実選手(パラアルペンスキー)、田口亜希さん(元パラ射撃代表)らが登壇し、アスリートならではの過去大会での経験や今後の意気込みなどを語った。第2部の大盆踊り大会では、ミライトワ、ソメイティらによる「東京五輪音頭-2020-」のほか、市内全18区の舞踊団体らによる地域独自の盆踊りなどが披露された。また、ブースではBaseball5体験やボッチャ体験、ブラインドサッカー体験なども行われた。

⬅イベントの告知ポスター

⬅多くの大会パートナー企業も参加し、グラウンドを全面的に使用した大規模イベントとなった

～Tokyo 2020 Paralympic Games 1 Year to Go!～ 1年前記念イベント in 神奈川
（8月17日）

東京2020パラリンピック開催1年前を記念し、横浜赤レンガ倉庫で神奈川県とともに開催。森末慎二さん（元体操代表）、益子直美さん（元バレーボール代表）、三阪洋行さん（元車いすラグビー代表）、葭原滋男さん（元パラ陸上競技代表）、田口亜希さん（元パラ射撃代表）、丸山桂里奈さん（元サッカー代表）ら大勢のアスリートによるトークショーのほか、ダンスパフォーマンスショーや書道パフォーマンスショー、パラスポーツデモンストレーションや体験イベントなどを行った。

⬅イベントの告知ポスター

2019 ASOBALL体験会
（11月16日）

東京2020オリンピックのソフトボールの開催盛り上げイベント。野球・ソフトボール未経験の市立小学校の親子を対象に、スポンジ製のバットとボールを使い、投げる・打つなどベースボールの基本動作を学ぶ、親子参加型の球技体験会を横浜スタジアムで開催。同日開催の日本女子ソフトボールリーグ1部・決勝トーナメントの試合後に行われた。参加者は元街小学校、本町小学校（中区）の1・2年生の親子24組48名。参加者の親子が初めての球技体験を楽しんでいた。

⬅参加者の親子たちが、スポンジ製のボールを持って笑顔でポーズ！

➡初めてのキャッチボールを体験。皆が思い思いに一生懸命投げていた

～みんなでソフトJAPANを応援しよう!～ソフトボール女子日本代表ふれあいフェスティバル
（11月19日）

オリンピック競技のソフトボールの機運を盛り上げるイベント。立野小学校（中区）の6年生約90名と、英国コヴェントリー市の10歳～11歳の児童10名、横浜商業高等学校の生徒10名らが、ソフトボール女子日本代表とソフトボール体験会や、4チーム対抗玉入れ大会などを実施。子どもたちからソフトボール女子日本代表の選手たちへ質問や、オリンピックへのエールを送った。最後は参加者全員でフォトセッションも行うなど、思い出深いイベントになった。

⬅参加者全員で記念撮影も行った。子どもたちにとっては絶好の体験機会となった

➡ソフトボール女子日本代表選手による、子どもたちとのソフトボールの体験会

2020年

200 Days to Go! フェスティバル in 横浜市 ～東京2020開催まであと200日!～
（1月25日）

開催200日前を記念して行ったイベント。中澤佑二さん（元サッカー代表）、具志堅幸司さん（元体操代表）、森田淳悟さん（元バレーボール代表）、富田宇宙選手（パラ水泳）、兎澤朋美選手（パラ陸上競技）など、様々なアスリートが登壇し、オリンピック・パラリンピックの思い出や意気込みなどを話した。併せてパラスポーツ体験や、聖火リレートーチ展示なども行われ、当日約30,000人が会場を訪れた。

⬅イベントの告知チラシ

大会延期決定後 2020〜2021

2020年

今、スポーツにできること in 横浜。for Tokyo2020
（7月23日、8月24日）

大会延期後、初の本格的なイベントをオンラインで実施。石川佳純選手（卓球）、上田藍選手（トライアスロン）、入江聖奈選手（ボクシング）、兎澤朋美選手（パラ陸上競技）、古澤拓也選手（車いすバスケットボール）、清原奈侑選手（ソフトボール）らによるメッセージや、子どもたちから選手に向けたエールなどを配信した。また、コスモクロック21では特別ライトアップも行った。

←ももいろクローバーZの高城れにさんをスペシャルコメンテーターに迎えて配信した

250 Days to Go! オンラインフェスティバル for Tokyo2020 in 横浜
（11月15日〜2021年1月4日）

開催250日前を記念するオンラインキャンペーン。市内のオリンピック競技会場である横浜スタジアムと横浜国際総合競技場の内部や学校での取組を紹介する動画、上原大祐さん（元パラアイスホッケー代表）や、栗栖良依さん（パラ・クリエイティブプロデューサー/ディレクター）らのトークショーやオンライン講座などを配信した。

←キャンペーンのコアイベントの発信拠点となった横浜ハンマーヘッドには、大会パートナー企業の関係者らも集まった

2021年

100日前キャンペーン in 横浜
（4月14日〜5月16日）

開催100日前を記念するキャンペーン。市庁舎では、東京2020公式アートポスター全20作品の展示や、金澤翔子さん（書家）、鴻池朋子さん（アーティスト）、佐藤卓さん（グラフィックデザイナー）、野老朝雄さん（美術家）、山口晃さん（画家）ら、横浜に縁のあるポスター制作者5名のメッセージ動画の放映・配信などを行った。また、東京2020オリンピック100日前の4月14日と、東京2020パラリンピック100日前の5月16日には、横浜スタジアムや横浜国際総合競技場などで特別ライトアップも行い、医療従事者らへの感謝の気持ちと、横浜スタジアムで開催される「野球・ソフトボール」を応援する気持ちを表現した。

←施設の協力を得て、市内各所でライトアップを実施した

神奈川県・横浜市ゆかり選手 オンライン壮行会
（6月19日）

東京2020大会に出場が内定した、神奈川県・横浜市にゆかりのある選手を対象とした壮行会を、神奈川県とともにオンラインで開催。須長由季選手（セーリング代表）や荒川龍太選手（ボート代表）、日向楓選手（パラ水泳代表）とのライブ中継のほか、ゲストとして中畑清さん（元野球代表）、大日方邦子さん（元パラアルペンスキー代表）、田中理恵さん（元体操代表）らが出演。多くのアスリートから届いたメッセージを紹介した。

←イベントの告知チラシ

フォトロゲイニングで横浜めぐり 〜もうすぐ横浜に オリンピックがやってくる!〜
（7月4日）

時間内にチェックポイントを回って写真を撮り、得点を重ねるスポーツ「フォトロゲイニング」。みなとみらい駅が発着地となり、オリンピック競技会場の横浜スタジアムや横浜国際総合競技場をはじめ、1964年東京オリンピック聖火リレーコースなど、オリンピック・パラリンピックにまつわる市内の名所がチェックポイントとなった。

←イベントの告知チラシ

大会期間中 2021

2021年

オリンピックシンボルを活用した大型モニュメント設置
（6月29日～8月8日）

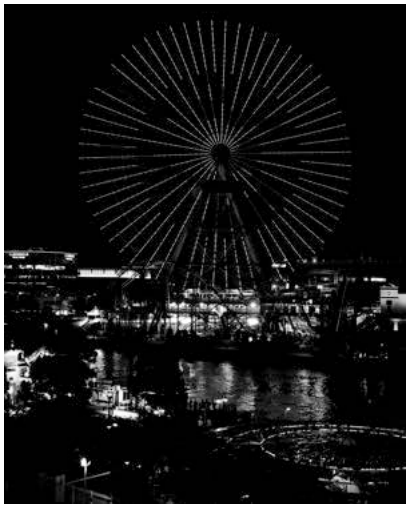
高さ約6m、幅約9.5mの鉄骨製のオリンピックシンボルを使った巨大なモニュメントを赤レンガパークに設置。横浜港大さん橋客船ターミナルに停泊する大型客船とのコラボレーションも楽しめ、写真に収める人が多かった。また、新型コロナウイルス感染症の影響で緊急事態宣言が発出されるまで（～8月1日）は、夜間は19時から白く発光するライトアップと、オリンピックシンボルの5色（青・黄・黒・緑・赤）での水面照射を行い、遠距離からでも際立って光る景色がよく見えた。幻想的で、昼とはまた違う雰囲気が醸し出されていた。

⬆大さん橋から見たオリンピックシンボル ©Tokyo 2020

⬆夕方のライトアップ。開催地の横浜ならではの光景 ©Tokyo 2020

「動くスポーツピクトグラム」を活用したライトアップ
（7月23日～8月1日）

みなとみらい21エリアの象徴であるコスモクロック21を活用し、「動くスポーツピクトグラム」のライトアップを実施。緊急事態宣言の発出に伴い、終了日が8月8日から短縮されたが、オリンピック全33競技のピクトグラムが種目ごとの象徴的な動作を再現し、躍動感にあふれた様子は、多くの人の心に刻まれた。動くスポーツピクトグラムは、東京2020組織委員会がオリンピック33競技50種類、パラリンピック22競技23種類を、オリンピック・パラリンピック史上初めて作成した。



⬅ライトアップされたピクトグラムを動画撮影し、SNSに投稿する人が続出した

横浜スポーツガーデン 市庁舎内アトリウム展示
（7月21日～8月8日、8月24日～9月5日）

市庁舎内の1階にあるアトリウムで開催。スポーツアートやフォトモザイクアートなどの体験、体感、展示を通してスポーツや横浜の魅力を再発見するイベント。東京2020オリンピック聖火のライブ映像配信や、スポーツをテーマとしたアート作品展示などを行った。このほか大会パートナー企業の協力により、巨大なメガホンモニュメントの展示や、大会での選手の活躍を速報で紹介するデジタル報道写真展も行われた。

⬆側面に選手への応援メッセージが装飾された巨大メガフォン

⬆金メダル獲得と大活躍したソフトボール競技の号外や山田恵里選手の等身大パネルを展示

大会期間後 2021

2021年

東京2020大会関連企画展（報道写真展・特別展・巡回展）
（9月7日～12月28日）

東京2020大会の感動や興奮を改めて感じてもらえるよう、大会を振り返る企画展を開催。メダルラッシュに沸いた選手の活躍を中心に展示する報道写真やオリンピック聖火リレートーチ、事前キャンプをした選手団のサイン入り横断幕、各競技の各国代表選手サイン入りユニフォーム、野球・ソフトボール競技で実際に使用されたベースの展示などを実施した。9月7日～17日の市庁舎を皮切りに、12月28日までその一部が各区を巡回した。

⬅事前キャンプを行った英国などの記念写真やサイン入り横断幕などが飾られた

⬅実際に走行したランナーが着用したユニフォームとともに展示された聖火リレートーチ

神奈川・横浜アスリート感謝会 ～おうちから ARIGATOを届けよう!～
（9月26日）

コロナ禍で開催された東京2020大会で、多くの勇気と希望を与えてくれた神奈川県・横浜市にゆかりのある選手に対し、感謝の声を伝えるとともに、選手が大会に挑んだ思いに迫るオンラインイベントを神奈川県と開催。金メダリストの山田恵里選手（ソフトボール）、銀メダリストの富田宇宙選手（パラ水泳）、古澤拓也選手・鳥海連志選手（車いすバスケットボール）が出演。記念すべき自国開催となった今大会に懸けた思いなどを選手自身が語ってくれた。

⬅中澤佑二さん（元サッカー代表）と畠山愛理さん（元新体操代表）もゲストとして出演し、選手からよりリアルな感想を引き出した

福島県との交流

横浜市と同じく野球・ソフトボール競技の開催自治体である福島県と連携することで、震災復興支援にも寄与できるよう取り組んできた。東京2020組織委員会主催イベントに共同でブース出展したほか、両自治体の小・中学生がそれぞれを訪問し、交流試合などを行った。

2017年

東京2020 オリンピック・パラリンピック 1000日前キャンペーン in 横浜（第3弾）
（11月25日）

横浜スタジアムで行った、東京2020オリンピック競技種目である野球をPRするためのイベント。JX-ENEOS野球部を招いての野球教室の開催や、笘篠賢治さん・G.G.佐藤さん（元野球代表）らとのキャッチボール企画、さらに中畑清さん・三浦大輔さん（元野球代表）、室伏広治さん（元ハンマー投代表/東京2020組織委員会スポーツ局長）のトークショーなど、野球への関心を高める様々なイベントを開催した。

⬆野球教室やアスリートとの練習など貴重な体験の場となった

2019年

東京2020オリンピック 開幕300日前イベント
（10月5日）

横浜市と同じく野球・ソフトボール開催地の福島県で行った300日前イベント。横浜市の女子中学生15名が同県を訪問し、地元の子どもたちとソフトボールを実施。また、田端健児さん（元陸上競技代表）、堀畑裕也さん（元水泳代表）、佐藤寿治さん（元体操代表）、田中琴乃さん（元新体操代表）、荻原次晴さん（元スキー代表）、勅使川原郁恵さん（元スケート代表）のトークショーも開催。

市内18区との連携

東京2020大会の開催に向けて、18区においても、イベントでの競技体験コーナーの設置や、パネルやのぼり旗などの広報ツールを活用した開催PRブースの出展等を通じて、機運醸成に取り組んだ。また、オリンピアン・パラリンピアンをゲストに招いたスポーツ教室を開催するとともに、国際理解や障害理解をテーマとした講演会を行うなど、大会を契機とした一層のスポーツ振興や共生社会実現にも取り組んだ。

18区のイベント・取組（一例）

2017年度から2021年度にかけて区ごとに工夫を凝らし、さまざまな取組が行われた。ここではその一部を紹介する。

●鶴見区

フォトモザイクアートを活用したラッピングバスが、区内を巡回走行した（2021年度）

●神奈川区

オリンピアンを講師としたバスケットボール講座を開催した（2017年度）

●西区

壁面装飾など区庁舎にフォトスポットを設置し、インスタグラムでの投稿を促進した（2021年度）

●中区

地元プロ野球チームOBコーチらを講師とするキッズベースボールクリニックを開催した（2021年度）

●南区

きれいな街で来訪者をお迎えしようと、地域住民や事業者などが区内全域にわたって清掃した（2019年度）

●港南区

区のイベント内でオリンピック競技であるスポーツクライミングを体験できるコーナーを設置した（2019年度）

●保土ケ谷区

マラソン大会においてオリンピアンによる「走り方講座」を開催した（2018年度）

●旭区

パラリンピック競技であるボッチャを体験できるイベントを開催した
(2020年度)

●磯子区

エレベーターへのラッピングや横断幕の掲出で区庁舎内を装飾した
(2020年度)

●金沢区

オリンピアンやパラアスリートをゲストにトークショーを開催した
(2020年度)

●港北区

文化・芸術を通した障害理解の促進として聴覚障害者向け人形劇を開催した
(2019年度)

●緑区

1964年の東京パラリンピック大会記録映画を上映し、ＮＨＫ解説委員によるトークが行われた
(2021年度)

●青葉区

区のブックフェスタにおいてオリンピック競技に関連する特設図書コーナーを設置した
(2020年度)

●都筑区

ボランティアに焦点を当てた国際理解講座を開催した
(2019年度)

●戸塚区

元野球日本代表の監督をゲストに招き、トークショーを行った
(2019年度)

●栄区

おもてなしをテーマとした、トークショーとパネルディスカッションを行った
(2019年度)

●泉区

区のイベントにおいて、大会関連物品の展示などを行うレガシーブースを出展した
(2021年度)

●瀬谷区

オリンピアンを講師として「かけっこ教室」を開催した
(2019年度)

学校と連携した取組

東京2020大会の開催を契機に市内のスポーツ振興を図り、大会への機運を高めるため、子どもたちがオリンピアン・パラリンピアンやパラアスリートと直接触れ合う事業を実施した。

2014年度から市立小・中学校などでオリンピアン・パラリンピアンによる学校訪問事業を始めたほか、2018年度からはスポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業※」を受託し、市立学校でのオリンピック・パラリンピック教育を推進するなど、次代を担う子どもたちを対象とした事業を展開した。

※オリンピック・パラリンピックへの国民の関心を高め、スポーツの価値や効果の再確認を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成するため、全国各地においてオリンピック・パラリンピック教育を推進する、スポーツ庁の事業

オリンピアン・パラリンピアンによる学校訪問事業

市立小・中学校などにオリンピアンやパラリンピアンが来校し、スポーツの楽しさや素晴らしさ、共生社会の大切さを伝えてきた。講演のほか実技指導や部活動指導が行われ、トップアスリートと直接交流できる貴重な機会となった。

⬆オリンピアンからフォームの指導を受ける野球部員

⬆パラリンピアンによる講演会で、熱心に耳を傾ける生徒たち

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

本事業の一環として、市立学校の中からモデル校「オリンピック・パラリンピック教育推進校」（オリパラ推進校）を指定し、年間を通じて重点的にオリンピック・パラリンピック教育を推進した。推進校では、ブラインドサッカーなどの体験プログラムや、横浜国際プールで開催されたジャパンパラ水泳競技大会の観戦などを通じて、特にパラスポーツの普及や生活の中で相手を尊重する姿勢に関する学習が積極的に行われた。

⬆ブラインドサッカー体験。パラスポーツの奥深さを実感

JOCオリンピック教室

JOCパートナー都市の横浜市では、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶ学校教育の一環で、市立中学校でJOCオリンピック教室を実施してきた。本教室ではオリンピアンが講師を務め、身体の使い方やチームプレーの大切さを体験する「運動」と、過去大会での経験に関する講話を踏まえてディスカッションする「座学」を通じて、オリンピックの価値（卓越・友情・尊重）などについて理解を深めている。

⬆長岡千里さん(元ボブスレー代表)による教室での座学の様子

横浜市立学校カウントダウンリレー

東京2020大会横浜市ウェブサイトでは、2019年3月から東京2020オリンピックが開幕するまで、横浜市立学校の全510校が協力して、1校ずつカウントダウンを実施。多くの生徒たちが力を合わせて人文字で数字を表現した学校や、ステンドグラス風にしてまるでアート作品のように表現した学校、様々な柄を切り取って切り絵のように貼った学校など、各校の個性あふれる作品が勢揃い。

※全作品➡資料編「横浜市立学校カウントダウンリレー全作品」(P132〜参照)

東京2020大会パートナー企業との取組

横浜市では、大会パートナー企業とともに、次代を担う子どもを対象とした共生社会の実現や競技の普及・啓発に関する取組を進めた。その一例として、神奈川小学校(神奈川区)において「つながりワークショップ」が行われ、視覚障害がある人もスポーツ観戦を楽しむためにはどのような工夫をしたらよいか、田中章仁選手(5人制サッカー)らとともに学んだ。また、元街小学校(中区)や北山田小学校(都筑区)などで「Baseball5体験会」が行われ、野球・ソフトボール振興の一環として発表された新アーバンスポーツを児童が実際にプレーした。

⬅つながりワークショップ(協力:日本電信電話株式会社(NTT))

➡Baseball5体験会(協力:読売新聞社)

横浜市立学校全校が参加した学校作品展示

東京2020大会にエールを送る取組として、市立学校の全校が参加したアート作品が、2021年8月19日・20日に市庁舎アトリウムに展示された。また、オリパラ推進校を中心に、大会がさらに楽しみになるような、手作りによる温かみのある作品が各校から集まった。市庁舎を訪れた人も思わず立ち止まって見ていくほど、各校の斬新なアイデアがたくさん詰まった作品が並んでいた。

⬆5色のお皿の上で日本で親しまれている鍋料理を紹介する作品

「フラッグリサイクルYOKOHAMA」事業

資源を無駄にしない大会運営や持続可能な社会の実現のため、横浜市初の取組として、市が製作した東京2020大会バナーフラッグはリサイクルすることを前提に、素材の選定や再資源化(粉砕・溶解)などが行われ、多目的ボックスとして再形成された。この事業の一環で、旭小学校(鶴見区)では2022年1月・2月に、リサイクルの重要性や方法を学ぶワークショップが行われた。

⬅バナーフラッグが敷きつめられた体育館で授業をする様子

©Takumi Taniguchi

➡実際にフラッグに触れ、素材を確かめる児童の姿もあった

©Takumi Taniguchi

SNS等を活用した情報発信

東京2020大会を市民により身近に感じてもらうため、2018年8月には東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市ウェブサイトをオープン。また、2019年3月にTwitter、2020年6月にInstagramとYouTubeも開設し、広報よこはまなどの紙媒体に加え、ウェブサイトやSNSで随時情報発信を行ってきた。特に大会延期後は、コロナ対策としてオンラインの取組が増え、それぞれの媒体の特性を生かし、イベント告知やプロジェクトのプロモーション、映像での魅力発信と、様々な取組が行われた。

東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市ウェブサイト

大会についての横浜市の情報を発信する主な場として、2018年8月1日に開設。東京2020大会の大会概要（開催競技、試合日程）やイベント・取組の紹介ほか、事前キャンプやホストタウン紹介、ボランティア募集、学校での取組などの関連最新情報を随時掲載した。

⬆大会の開催により親しみを持ってもらえるように展開

SNS

●Twitter（2019年3月12日開設）

イベントの告知や事業の紹介など最新情報を発信するため、東京2020オリンピック開催500日前に開設。大会期間中には、コスモクロック21での特別ライトアップに関する投稿が2,600件以上リツイートされるなどの反響があった

●Instagram（2020年6月1日開設）

大会延期決定後、コロナ禍でもプロジェクトを実施できるようにと開設。新型コロナウイルス感染症の困難に打ち勝ち、「世界の人々が平穏に暮らせる日々を取り戻せるように」という願いを込めて、東京2020組織委員会の事業「PEACE ORIZURU」に賛同し、プロジェクトとして展開した。競技をする折り鶴などでプロモーションを行った

⬆（左から）野球、サッカー、ボッチャをする折り鶴

●YouTube（2020年6月18日開設）

2020年５月のステイホーム期間中に制作した「みんなで踊ろう！『東京五輪音頭-2020-』横浜　＃STAYHOME編」を皮切りに、大会延期後のオンラインイベントのライブ配信やアーカイブ配信で活用した

⬆映像の特徴を生かした楽しく盛り上がれるような動画も配信

ハッシュタグキャンペーン

神奈川県とともに、2021年６月から９月にかけてSNS上の企画として展開。TwitterやInstagramにおいて、ハッシュタグ「#神奈川からエール」を付けて投稿してもらうことで、選手への応援メッセージを募った。集まったメッセージや質問の一部は、神奈川県と開催した「神奈川・横浜アスリート感謝会～おうちからARIGATOを届けよう！～」（2021年9月26日）で紹介され、出演選手らに届けられた。

広報ツール・PRグッズ

横浜市では、東京2020大会開催の機運醸成を目的に、各区役所などでポスターを掲出したほか、ピンバッジなど大会プロパティを活用した広報ツールや、横浜開催をPRするオリジナルグッズを配布し、イベントの来場者や参加者に向けて市内開催競技・会場などの周知を図った。

さらに大会期間中には、横浜市にゆかりのある選手などを応援する取組として応援メッセージボードやウェルカムガイドブック、来街者へおもてなしする取組として市内の障害者施設と連携してプチギフトが製作され、各区役所や横浜スポーツガーデンで配布された。

ポスター

市内の開催競技(野球・ソフトボール、サッカー)や開催会場(横浜スタジアム、横浜国際総合競技場)をPRするポスターや、ラグビーワールドカップ2019™・東京2020オリンピック両大会の決勝開催をPRするポスターを制作し、各区役所やスポーツセンターなどに掲出した。

⬅大会エンブレムを大きく据えた市内開催ＰＲポスター。2017年度から各区役所などで掲出された

➡ラグビーや野球・ソフトボール、サッカー選手の躍動感とともに「決勝横浜」をＰＲするポスター

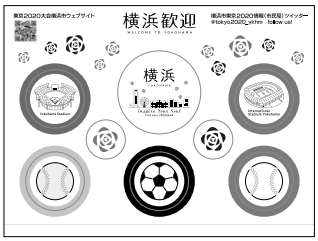
⬅試合中の写真をコラージュした市内開催をＰＲするポスター。期間中の都市装飾に活用された

ピンバッジ・バッグ型クリアファイル

東京2020大会エンブレム入りの広報ツール。カウントダウンイベントの来場者や、他のイベントへのブース出展時の体験会参加者に向けて配布した。

シール・メモ帳・不織布バッグ

「横浜歓迎」の思いを込めて、市内のオリンピック競技会場の横浜スタジアムと横浜国際総合競技場、開催競技の野球・ソフトボールとサッカーをPRするデザインとなっている。



⬆競技会場などのシール

⬆メモ帳

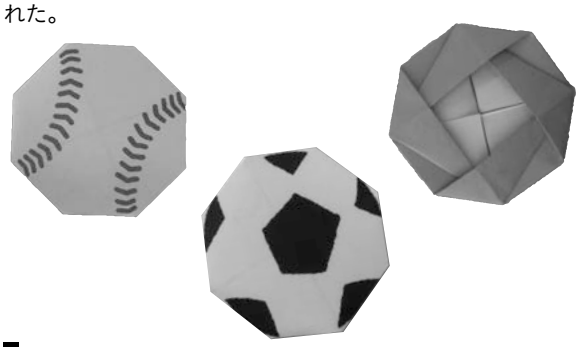
⬅バッグは表裏面でデザインが異なる

年賀はがき

延期前の開催年(2020年)到来を記念し、2019年11月から販売された。市内のオリンピック競技会場と「決勝横浜」をPRするデザインとなっている。

折り紙

市内の開催競技のPRを目的に製作されたオリジナル折り紙で、表面は野球ボール・ソフトボール・サッカーボールに、裏面は横浜市の花であるバラになるデザイン。バラは英国の国花でもあることから、英国事前キャンプのPRにも用いられた。



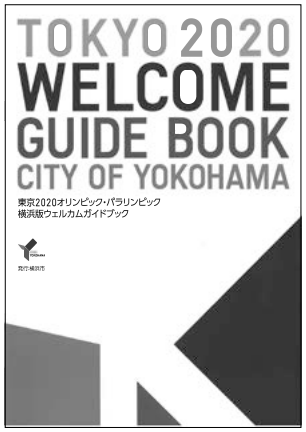
応援メッセージボード

選手への応援メッセージを書き込めるボード。５色展開で、蛇腹に折るとハリセンにもなる。自宅から観戦を楽しんでもらえるようにと、東京2020大会横浜市ウェブサイトからダウンロードできた。

⬆期間中の企画「横浜スポーツガーデン」でも配布。メッセージを掲げた写真をＳＮＳに投稿するキャンペーンも展開した

横浜版ウェルカムガイドブック

横浜市にゆかりのある日本代表選手情報や市内の開催競技、事前キャンプ・ホストタウン情報などを掲載している。自宅から観戦を楽しんでもらえるように、各区役所で配布したほか、東京2020大会横浜市ウェブサイトからも閲覧できた。



⬅横浜のシンボル的な色である青を基調とした表紙

Welcome to YOKOHAMA おもてなしプチギフト

市内障害者施設20か所と連携して製作。それぞれの施設の特長を活かしたメモスタンドやマグネットなどの製品に「ようこそ横浜へ」の思いが込められた。市庁舎アトリウムで、期間中に開催されたイベント「横浜スポーツガーデン」で配布された。

⬅カラフルな刺繍が施されたポケットティッシュケース

⬆海をイメージした青色の、コードなどを束ねる小物

⬇横浜赤レンガ倉庫など横浜の名所を形取った木製のメモスタンド

➡錨など港町を連想したデザインのマグネットセット

都市装飾

大会に向けた機運醸成とともに、横浜への来訪者に対するおもてなしの一環で、オリンピック競技会場の横浜スタジアムと横浜国際総合競技場の周辺、また東京2020ライブサイト周辺のみなとみらい地区などの市街地で計画が進められた。しかし、コロナ対策としての不要不急の外出自粛・人流抑制の観点から、東京2020ライブサイト・パブリックビューイングが中止となったため、当初の予定から装飾箇所の縮小、装飾期間の短縮が行われた。

バナーフラッグ等の装飾

競技会場の横浜スタジアムと横浜国際総合競技場の周辺には各競技会場のカラー（藍・紅）を基調としたバナーフラッグの掲出を予定していたが、無観客の判断を受け、多くを中止することとなった。一方、市街地には、市内開催競技のPRを目的に、選手らの躍動感ある試合中の写真をコラージュした装飾が展開された。

区分	エリア	箇所	実施期間
ラストマイル	関内	旧市庁舎周辺	中止
		日本大通り	
		旧市庁舎仮囲い	
	新横浜	新横浜駅交通広場（横断幕・柱巻き）	
		ペデストリアンデッキ	
		新横浜駅～スタジアム	
		東ゲート橋	7/15~8/8
	小机	小机駅改札出口付近（看板）	中止
		小机駅北口（柱巻き・壁面装飾）	
		小机駅階段（壁面装飾）	
		小机駅～スタジアム	7/15~8/8
市街地	関内	日本大通り	中止
		県庁前海岸通り～大さん橋	
	桜木町	クロスゲート（懸垂幕）	7/19~8/8
		桜木町駅前広場	
		汽車道	
		万国橋周辺	
	横浜	横浜駅きた・みなみ通路（ポスター）	7/15~8/8
		横浜駅西口	

※横浜市が製作した東京2020大会のバナーフラッグは、横浜市初の取組としてリサイクルすることを前提に、素材の選定や再資源化などが行われた（「フラッグリサイクル YOKOHAMA」事業）
➡第4章「学校と連携した取組」（P83参照）

⬅横浜スタジアムは藍、横浜国際総合競技場は紅を基調に、会場名などがデザインされたラストマイル装飾

➡4人の選手の躍動感があふれる市街地装飾

オリンピックシンボルを活用した大型モニュメント／「動くスポーツピクトグラム」を活用したライトアップ

➡第4章「イベント」（P78参照）

東京2020マスコットマネキン（ミライトワ・ソメイティ）

大会史上初の試みとして、全国の小学生と海外の日本人学校の児童によるクラス単位の投票で選ばれた大会マスコットのミライトワとソメイティ。横浜市では、高さ約150cmのマネキンを製作し、2020年に竣工した新市庁舎において、来庁者やイベント来場者を出迎えた。

カウントダウンボード

旧市庁舎、桜木町駅前、野毛山動物園前、横浜駅みなみ西口、新横浜駅ペデストリアンデッキにカウントダウンボードを設置（旧市庁舎は移転に伴い途中撤去）。大会延期に伴う中断を挟んだものの、延期前の200日前にあたる2020年1月から開催まで、また開会後も閉会までの時を刻んだ。

⬆旧市庁舎にて

ライブサイト
（コミュニティライブサイト・パブリックビューイング）

ライブサイトとは、東京2020大会の期間中、大型スクリーンを利用した競技中継を中心に、競技体験やステージイベント、飲食・グッズ販売等を行い、競技会場外で誰もが大会の感動と興奮を共有できる機会を提供する場である。
ライブサイトには、競技開催自治体として、東京2020組織委員会と共同で開催する「東京2020ライブサイト」と、自治体が単独で開催する「コミュニティライブサイト」、また競技中継のみを行う「パブリックビューイング」がある。

大会延期前の計画

横浜市では、大会延期前には、当時としてはオープン直後のお披露目となる新市庁舎アトリウムと、1964年の東京オリンピックでバレーボール競技が行われた横浜文化体育館※の2施設を会場に、「東京2020ライブサイト」を開催し、横浜の街全体のにぎわいにつなげていこうと計画していた。

※横浜文化体育館では、東京1964大会開催直前に「東京オリンピック・バスケットボール競技予選横浜大会」も開催された。

●東京2020ライブサイト

会場	期間
市庁舎アトリウム	オリンピック開催期間（2020年7月22日～8月9日）※7月22日はソフトボール競技開始日 パラリンピック開催期間（2020年8月25日～9月6日）
横浜文化体育館	オリンピック開催期間（2020年7月24日～8月9日）

⬇

大会延期後の計画

大会延期後は、簡素化の方針や新型コロナウイルス感染症の影響、また、横浜文化体育館が再整備工事により利用できなくなった事情を踏まえ、会場・内容・開催期間について検討し、計画を変更して調整を進めた。しかし、コロナ対策としての不要不急の外出自粛・人流抑制の観点から、ライブサイト・コミュニティライブサイト・パブリックビューイングはいずれも中止となった。併せてCCY（横浜市・都市ボランティア）についても、イベント補助での活動が中止となり、新たに活動について急遽検討し、決定次第連絡することとなった。

東京2020ライブサイト ➡中止

●会　　場：大さん橋ホール
●開催期間：2021年7月31日～8月7日
※オリンピック期間の8日間

横浜市では大会延期前には、市庁舎アトリウムと横浜文化体育館の２か所を会場として準備し、横浜の街全体の賑わいにつなげていこうと計画。大会延期決定後は、大さん橋ホール1か所をライブサイト会場に変更し、大会パートナー企業9社の出展も予定されていたが中止となった。

⬆大さん橋ホールで計画されていた東京2020ライブサイトのイメージパース

コミュニティライブサイト ➡中止

●会　　場：「臨場感LIVEビューイング」を予定していた磯子区を含め6区7会場

東京2020大会の模様を大スクリーンで中継することに加え、大会にちなんだイベントなどの催し物も行うことができるコミュニティライブサイトは、市内6区7会場で検討されていた。特に、横浜こども科学館・プラネタリウムでは、全国でわずか11か所のみで計画された「臨場感LIVEビューイング」（ドーム全体が360度のスクリーンと化し、会場で観戦しているような迫力あふれる競技中継）を予定していたが、これを含めてすべて中止となった。

⬅広報よこはま磯子区版2021年6月号では、コミュニティライブサイトを紹介していたが、その後中止が決定

パブリックビューイング ➡中止

●会　　場：市庁舎アトリウム
●開催期間：2021年7月21日～8月8日、8月24日～9月5日

大会の様子をスクリーンでライブ中継するパブリックビューイング。市庁舎アトリウムは当初、東京2020ライブサイトを予定していたが、延期後はパブリックビューイングに変更して行うことが決定していた。主に市役所や施設内にある飲食店に向かう人たちが気軽にオリンピック・パラリンピック大会を楽しめる場として期待されていた。

⬆市庁舎アトリウムでのパブリックビューイングのイメージパース

⬇

パブリックビューイング中止後の企画

横浜スポーツガーデン

●会　　場：市庁舎アトリウム
●開催期間：2021年7月21日～8月8日、8月24日～9月5日

パブリックビューイング中止決定後、市内でオリンピックが開催されていることを市民とともに実感できる場、横浜市ゆかり選手を自宅で応援していただくための情報発信の場、スポーツを通じた市民との協働の場として、市庁舎アトリウムを活用し、スポーツに関連した展示などを楽しめるスペースとして企画。〝密〟を作り出さないようレイアウト上の工夫と運営面で配慮しながら、市民から寄せられた多数の写真で制作した「笑顔でつくる！フォトモザイクアート」や、神奈川県内で行われた競技の魅力を紹介する展示などを行った。オリンピック期間・パラリンピック期間合わせて約12,000人が来場した。

⬆お台場・夢の大橋で灯っていたオリンピック聖火を中継

オリンピック聖火リレー

オリンピック聖火リレーは、2021年3月25日から7月23日までの121日間で全都道府県にて実施された。このうち、神奈川県は6月28日から6月30日までの3日間の日程で、横浜市では6月30日に行われた。新型コロナウイルス感染症の影響により、神奈川県内の公道走行は中止となったため、それに代わる点火セレモニーと、聖火の到着を祝うセレブレーションが横浜赤レンガ倉庫で行われ、集まったランナーによって聖火がつながれた。

点火セレモニー

（主催：東京2020組織委員会、東京2020オリンピック聖火リレー神奈川県実行委員会）

6月30日に走行を予定していた約100名の聖火ランナーが、複数のグループに分かれてトーチキス（ランナーが次のランナーに聖火を受け渡すこと）で聖火をつないだ。なお、点火セレモニーはランナーとその関係者のみで実施され、その様子はオンラインで配信された。

セレブレーション

（主催：日本電信電話株式会社、東京2020組織委員会、東京2020オリンピック聖火リレー神奈川県実行委員会）

県内の最終聖火ランナーのÜSAさんによる聖火皿への点火をはじめ、ステージイベントや聖火リレーパートナー企業による展示が行われた。

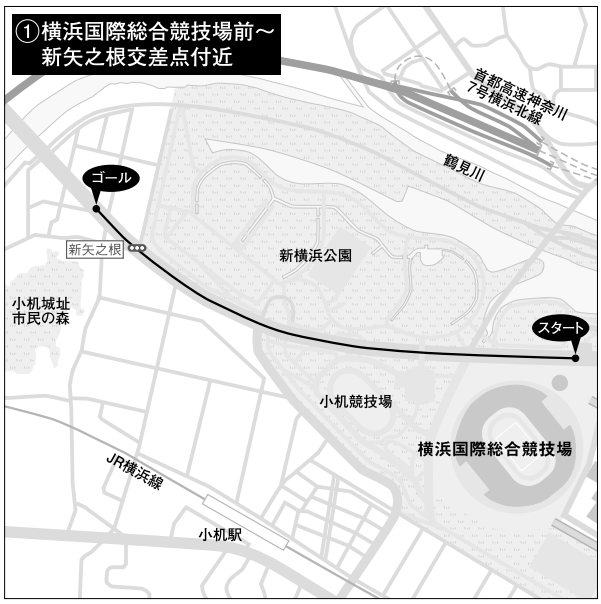
ステージイベント	●横浜市消防音楽隊による演奏 ●神奈川県立市ケ尾高校ダンス部によるダンス ●EXILEのÜSA氏、TETSUYA氏、福島県相馬地方、熊本県益城町・西原村のキッズダンサーによるダンス ●登壇者のご挨拶 ●神奈川県の最終聖火ランナー（ÜSA氏）による聖火皿への点火 ●武田双雲氏によるライブパフォーマンス ●GENERATIONS from EXILE TRIBE及びSAMURIZE from EXILE TRIBEによるライブパフォーマンス
当日の登壇者（役職は2021年6月30日時点）	●橋本聖子氏（東京2020組織委員会会長） ●黒岩祐治氏（神奈川県知事） ●井上福造氏（東日本電信電話株式会社・代表取締役社長） ●田口亜希氏（東京2020聖火リレー公式アンバサダー） ●石原さとみ氏（東京2020聖火リレー公式アンバサダー） ●TETSUYA氏（EXILE） ●山下泰裕氏（日本オリンピック委員会会長） ●林文子（横浜市長）

聖火リレー走行予定ルート

（横浜市内）

6月30日12時10分に横浜国際総合競技場前を出発し、市庁舎前など7区間に分かれて、全長約17kmを約90名のランナーが走り抜ける予定だった。

出発		到着	
予定地	予定時間	予定地	予定時間
①横浜国際総合競技場前	12:10	新矢之根交差点付近	12:26
②三ツ沢公園陸上競技場横	14:10	横浜西口KNビル裏	15:03
③金港町交差点付近	16:00	横浜市庁舎付近	16:51
④横浜市庁舎前	17:00	万国橋交差点	17:24
⑤万国橋北	17:45	トヨタレンタカー元町石川町店前	18:35
⑥トヨタレンタカー元町石川町店前	18:35	マリンタワー前バス停	19:11
⑦マリンタワー前バス停	19:11	横浜赤レンガ倉庫	19:48



②三ツ沢公園陸上競技場横～
横浜西口KNビル裏
三ツ沢公園
三ツ沢公園前
スタート
横浜市平沼記念体育館
沢渡中央公園
首都高速神奈川2号三ツ沢線
ゴール
北幸交番前
横浜駅西口
浅間神社
浅間下
横浜駅
新田間川
岡野
岡野公園
平沼橋駅
環状2号
横浜高速鉄道みなとみらい線
JR京浜東北線

③金港町交差点付近～
横浜市庁舎付近
ポートサイド公園
ポートサイド中央
スタート
横浜駅
高島水際線公園
とちのき通り西
高島中央公園
臨港パーク入口
新高島駅
臨港パーク
平沼橋駅
みなとみらい線
パシフィコ横浜
高島町駅
みなとみらい駅
国際橋
横浜美術館
戸部駅
横浜ランドマークタワー
さくら通り西
掃部山公園
JR根岸線
ゴール
横浜赤レンガ倉庫
桜木町駅
市庁舎
馬車道駅
横浜高速鉄道みなとみらい線
JR京浜東北線

④横浜市庁舎前～
万国橋交差点
日本丸メモリアルパーク
汽車道
運河パーク
ゴール
万国橋
メガサップを利用したリレー
スタート
桜木町駅
横浜第二合同庁舎
市庁舎
馬車道駅
みなとみらい線
大岡川
県立歴史博物館

⑤万国橋北～
トヨタレンタカー元町石川町店前
スタート
横浜赤レンガ倉庫
万国橋
市庁舎
桜木町駅前
横浜第二合同庁舎
桜木町駅
本町4
象の鼻パーク
県立歴史博物館
馬車道駅
横浜税関
神奈川県庁
関内ホール
山下公園
福富町西公園
日本大通り駅
日ノ出町
日ノ出町駅
JR根岸線
横浜公園
関内駅
横浜スタジアム
京急本線
横浜スタジアム前
横浜中央病院
不老町2
扇町公園
ゴール
伊勢佐木長者町駅
大通り公園
長者町3
吉浜町公園
石川町駅
阪東橋駅

⑥トヨタレンタカー元町石川町店前～
マリンタワー前バス停
山下公園
みなとみらい線
ゴール
中華街東門
横浜マリンタワー
加賀町警察署
山下橋
中華街大通り
関帝廟通り
元町・中華街駅
山下町公園
谷戸橋
前田橋
アメリカ山公園
横浜中央病院
港の見える丘公園
スタート
元町通り
石川町駅
元町
JR根岸線
元町公園

⑦マリンタワー前バス停～
横浜赤レンガ倉庫
ゴール
セレブレーション会場（横浜赤レンガ倉庫）
赤レンガ倉庫
横浜港大さん橋
国際客船ターミナル
日本郵船
歴史博物館
県警本部
象の鼻パーク
横浜税関
横浜税関前
神奈川県庁
開港広場前
横浜市開港
記念会館
日本大通り駅
神奈川県民ホール
山下公園
スタート
中区役所
横浜公園
横浜マリンタワー
横浜スタジアム
加賀町警察署
山下橋
元町・中華街駅

パラリンピック
聖火フェスティバル

東京2020パラリンピックでは、英国のストーク・マンデビル（パラリンピック起源の地）と、47都道府県で採火された火が集火され、パラリンピックの聖火となった。トーチによるリレーは、競技開催都県（静岡、千葉、埼玉、東京）で行うこととされ、採火等を行う「聖火フェスティバル」が、全国で実施された。神奈川県では、2021年8月12日から15日までに県内全市町村及び神奈川県で採火し、8月15日に神奈川県が主催する「集火・出立式」で一つの「ともに生きる社会かながわの火」となった。

横浜市では、8月13日に採火式を実施し、開港広場公園前のガス灯の火を「横浜の火」として採火した。

横浜市採火式

●開催日：2021年8月13日
●採火者：大日方邦子氏
（パラリンピック アルペンスキー 金メダリスト）
平井孝幸氏
（横浜市スポーツ推進委員連絡協議会会長）
林琢己（横浜市副市長）
●ゲスト：大日方邦子氏（同上）
上原大祐氏
（パラリンピック アイスホッケー 銀メダリスト）

開港広場公園前のガス灯から採火する様子を中継でつなぎ、オンラインで配信。パラリンピアンによるトークセッションでは、パラリンピックの見どころや過去大会のエピソードなどが披露された。さらに、パラスポーツの魅力や、東京2020大会で注目している選手も熱く語られ、大会開催へのムードを盛り上げた。

⬆トークセッション会場にランタンで運ばれた「横浜の火」

⬆過去大会で獲得したメダルも披露され、選手の活躍に期待が高まった

神奈川県集火・出立式

●開催日：2021年8月15日
●出立者：二條実穂氏
（パラリンピック 車いすテニス ダブルス 4位入賞）

県内全市町村で採火された火が集められ、「ともに生きる社会かながわの火」として、一つに集火。二條実穂さんが出立者として、東京2020パラリンピック聖火リレートーチに灯し、開催都市東京に送り出した。

⬆イベントの様子はオンラインで配信された

横浜市ゆかりの代表選手インタビュー
山田 恵里選手
～東京2020オリンピック～

金メダルの重圧に押し潰されそうに

2016年にソフトボールが東京2020オリンピックの追加種目に決定した時は、ようやくあの舞台に戻ることができると、本当にうれしくて。2大会連続でオリンピック種目から除外されていた間、ソフトボールをもう辞めようと考えたことが何度もあったんですけれど、続けてきてよかったです。

一方で、大会本番が近づくにつれて、精神的にしんどくなりました。私はキャプテンであり、年齢的にも野手で一番年上だったので、背負わなければいけないものがたくさんありましたし、「金メダルを取って当たり前」というプレッシャーが、競技人生で初めて重くのしかかりました。それでも大会が始まれば楽しめるかなと考えていたのですが、逆に本番の方が苦しかったですね。プレッシャーに押し潰されそうになり、不安や恐怖心は消えることがなかったです。

2年前から狙い球を決めていた

3戦目のイタリア戦(5対0)でも調子が上がらず途中交代。そんな経験をしたことがなかったですし、絶望感を味わいました。けれど最悪のところまで落ちたので、後はそこから上がるだけだと、逆に切り替えることができましたね。

ただ、ナイターだったイタリア戦後は、明け方4時ぐらいに目が覚めてしまったんです。その時ふと思い出したのが、2009年のWBCでのイチローさんのこと。その大会では、イチローさんも準決勝までは調子が良くありませんでしたよね。それでも決勝の延長10回に勝ち越しタイムリーを放って、日本を優勝に導きました。当時の映像を観て「自分も次からは大丈夫だな」と気が楽になり吹っ切れたようで、イチローさんにも救われました。

そのまま朝を迎えて、4戦目のカナダ戦(1対0)に臨んだ時には寝不足という感覚もなく、試合前の練習からバッティングの調子が良かったんです。打ち方を変えたわけではなく、気持ちの面でいい状態を作れたのが大きかったですね。延長タイブレーク、満塁で打順が回ってきた時には不安も消え、「ここで私が決める」という気持ちで打席に立ち、サヨナラヒットを打ちました。また、その日は猛打賞の結果も。それまでチームの足を引っ張ってきたのですが、勝利に貢献できて、やっとチームの力になれたなと思いました。

決勝のアメリカ戦(2対0)では、先頭打者の私が出塁して勢いをつければ、絶対にチームが乗ると思ったので、1回表の最初の打席にかけていました。相手の先発は戦前の予想通り、キャット・オスターマン投手。ソフトボールがオリンピック種目に復活すると決まってから、私は彼女と世界選手権などで対戦するたびに、打つべきボールをあえて見送るなど、いろんな球種を見て、すべては“最後に勝つ”ための情報収集をしてきました。それで2年前ぐらいから、ずっと狙い球を決めていたんです。本番で狙っていた外に逃げるボールが来て、ヒットを打つことができ、約4年間の準備が実りました。

横浜には感謝の気持ちでいっぱい

改めて、金メダルを取れて本当に良かったです。前回の北京2008大会の金メダルとは重みが全然違います！　それまで、うまくいかない経験をあまりしたことがなかったので、一番つらく苦しい大会を経験できたことは、今後にも生かせるはず。例えば指導者になった際に、良い時ばかりではなく悪い時の経験も伝えられます。代表選手としての最後の大会で、ああいった経験ができたのは意味がありましたね。

今大会でプレーした横浜スタジアムは、憧れの場所でした。所属していた少年野球チームが県大会に出場し、開会式にも出ました。プロ野球は、横浜大洋ホエールズ時代から地元のチームを応援していて、スタンドから観戦したことも。地元の会場でオリンピックが開かれ、さらにプレーできる確率なんてかなり低いでしょうし、とても誇らしかったです。

前所属チーム時代は戸塚に長く住んでいましたし、休日になると好きな街のみなとみらいの温泉施設によく行っていました。横浜はプロ野球、Jリーグなどプロチームがいろいろあって、地域とスポーツが一体になっているのも魅力ですし、ファンと選手の良い関係性が築けています。ソフトボールもそこに近づけるように価値を高めていきたいですね。

横浜市には、東京2020大会前のイベントに呼んでいただき、市民の皆さんから多くの応援をもらえて、感謝の気持ちでいっぱいです。ソフトボールは、次回2024年のパリ大会の種目に残念ながら入っていません。今後ソフトボール界を盛り上げ、2028年のロサンゼルス大会で再び復活させるためにも、皆さんに元気になってもらえるようなプレーを続けていきたいです。これからも応援してもらえたら、うれしく思います。

東京2020オリンピック
ソフトボール日本代表

山田 恵里選手

やまだ・えり●1984年生まれ、藤沢市出身。小学校から野球を始め、高校からソフトボールに転向。2002～2020年まで横浜の実業団チームに所属。現在は愛知の実業団チームでプレーする。キャプテンを務めた東京2020大会では、北京2008大会に続いて13年越しの連覇を達成

写真：長田洋平／アフロスポーツ

横浜市ゆかりの代表選手インタビュー
古澤 拓也選手
～東京2020パラリンピック～

メダルを取る自信はありました

小学6年生で車いすユーザーになってからパラリンピックに出るのが夢でした。今回の自国開催に向けて、6～7年間、人生を懸けてやってきた中で、銀メダルという結果を手に入れることができ、一生忘れることのない大会になりました。

日本は「メダル獲得」を目標に掲げ、準備してきたので、メダルが取れないことは考えなかったです。僕自身、初のパラリンピック出場だったため、前回まで日本が2大会連続9位だったという意識よりも、僕ら若手はU23世界選手権でベスト4（2017年）に入ったという意識の方が強かったです。メダル圏内に行くイメージはできていたし、自信がありました。

大会前は新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期になり、その後、開催されるかも分からない中で、不安はもちろんありました。ただ、トレーニングの強化など自分たちがコントロールできる部分は、チームとしてしっかりやっていたので、極端なダメージを受けることはなかったです。

最初の緊急事態宣言後には、リモートでこまめにミーティングをしたり、映像をつなげながら選手同士でトレーニングを行うなど、選手同士の結び付きを大事にしました。大会本番までの約1年半は、国内外の大会が一切開催されず、代表チームの選手だけで紅白戦をし続けたので、一緒にいる時間も長く、チームメイトが家族のような存在になりましたね。

決勝で日本の実力を証明できた

久々の国際試合となった東京2020パラリンピックでは、日本代表は試合を追うごとにゲームに慣れていき、強くなっていったのは間違いありません。ただ、楽に勝てた試合は一つもなかったです。前半リードされても、後半で粘って最後に逆転すればいいというのが、日本のスタイルなんです。

準決勝の英国戦（79対68）も前半は3点差でリードされましたけど、それも想定内のことでした。焦りも全くなかったですね。英国は2018年世界選手権のチャンピオンですし、強いのは分かっています。自分たちは、前半から相手選手に食らい付いてガツガツ当たり、後半に逆転することだけを考えて挑みました。

メダルがかかった試合というプレッシャーも感じなかったです。僕自身もやるべき仕事を全うしようとしただけで「ここで活躍してやろう」などと逸る気持ちはなくて。後半に自分が決めた逆転シュートも、あの場面の状況判断でシュートエリアにいたので狙っただけ。そこはいつもシンプルに考えていて、シュートを決めたからうれしいとか、外したから悔しいとかも全然ないんです。むしろ「今、この場面でシュートが打てるのか打てないのか」という判断を気にしますね。

決勝のアメリカ戦（60対64）は、めったに経験できない金メダルをかけた試合の中でも、楽しさがありました。持っている総合力はアメリカが断然強いけれど、日本は各々が持つ力をうまく使いながら、いい展開に持っていきました。ただ、後半の大事な場面で自分を含めてシュートを外してしまい、決められるか否かの重みを痛感しました。一方で、日本のトランジションバスケ（攻守の切り替えを速くして数的有利な状況を作る戦術）が通用することを証明できたと思います。

結果を出し続けることが僕の役目

それらは決勝の舞台に立てたから分かったこと。いい経験でしたし、「次は金メダルを」と思うようにもなりましたね。

銀メダルという成績の要因には、皆さんの応援の力が間違いなくありました。SNSへの応援メッセージの数がすごくて、試合を追うごとにフォロワーがどんどん増えていった印象です。僕のSNSでは、大会前は2,000人ぐらいだったのが、決勝が終わった時には10,000人にまで伸びました。大会後は、ローカルな試合にもお客さんが来てくださるようになり、ほぼ空席もなくなったみたいで。やっぱりスポーツ選手として、競技の認知度が上がったのはうれしいですね。

パラスポーツは、まだ障害のある人がやるスポーツだという認識を持つ方が多いと思いますけど、いざ観たらスポーツとしての魅力を感じてくれるはず。将来的にはパラスポーツがメジャーになってほしいですし、そのためにもこの競技の選手として、結果を出し続けることが役目だと思います。

僕の育った横浜は、遊びに行く場所がどこにでもあるのが魅力です。おしゃれな赤レンガ倉庫の周辺を散歩したり、特に抹茶とコーヒーが大好きなので、山下町の老舗ホテルから大さん橋近辺など、いろんなカフェ巡りもしています。

応援してくれた横浜市の方々に、感謝会などを含めてメダルを取った報告ができたことは、すごくうれしかったです。また世界大会のメダルを取ってお見せできるように頑張りますので、これからもずっと応援をよろしくお願いします。

東京2020パラリンピック
車いすバスケットボール男子日本代表

古澤 拓也選手

ふるさわ・たくや●1996年生まれ、横浜市港北区出身。12歳で車いすユーザーになる。13歳から車いすバスケットボールを始め、高校2年でU23日本代表選出。17年のU23世界選手権では主将で出場し4位に。桐蔭横浜大学卒業。東京2020パラリンピックで日本史上初の銀メダル獲得

写真：長田洋平／アフロスポーツ